

◇第3回研修会報告◇

平成29年9月24日

神戸市立森林植物園

9時に三宮駅に集合。バスに乗り約40分で神戸市立森林植物園に到着。



早速、森林展示館で、見ごろの花マップをチェックし、マップを片手に長谷池を目指して研修会はスタートしました。展示館には、絶滅危惧種Ⅱ類のマヤランをフラスコで栽培していました。いつ花が咲くか、わからないそうです。



ツリフネソウ

ゲンノショウコ

東日本では白色の花、西日本ではピンクの花が多く咲くとのこと。ここでは、両色の花を見ることができました。名前の由来は、薬用ですぐ効くので「現の証拠」。諸説あるようです。



トホシカメムシ！を発見。

黄褐色で、前胸部の両端が前方に突き出した大きなカメムシ。背中に10の小黒紋がある。全部で12の紋があるように思うのですが...

広葉樹林で見られ、ニレ類、カエデ類、サクラ類、ミズキなどの樹上に生息しているそうです。



ハクショウ（白松）

中国北西部原産。幹は高さ20～25mにもなるそうです。樹皮は、幼樹は光沢ある淡灰色。20年頃から剥離し、青褐色、40年頃は大きな不定形の鱗片が剥がれ、斑状の青味を帯びた白い樹皮になるようです。葉は3葉性。高野山の三鈴の松はこれ。



カマドウマの一種、ハヤシウマ♀を発見！
 俗称「便所コオロギ、オカマコオロギ」
 成虫でも翅をもたず専ら長い後ろ脚で跳躍する。



キハギ
 萩の見ごろの時期なので、たくさんの種類の萩を見ることができました。【萩の小径】があり、そこには、ヤマハギ、マルバハギ、ニシキハギ、ミヤギノハギを見ることができました。



タマヒョウタンボク

1つの花柄に2つの花が咲く。その為2個1セットの実ができる。同じところから3セット以上の実がついているところもありました。美味しそうな実ですが、残念ながら毒があるようです。



メナモミ

オナモミより華奢な雌ナモミ。写真撮影に没頭していたので、粘液でかなり衣服にひっついてきました。



バナナムシ

(ツマグロオオヨコバイ)



オオオナモミ

茎の先にあるのが雄花。その下に雌花がある。実の鉤でくっつく。



エダナナフシをヨウシュヤマゴボウの上で発見！



ミズヒキ

上半分が赤色、下半分が白色。上から見ると赤花、下から見ると白花に見えます。園のあちこちに咲いていました。



ミヤギノハギ



シロハギ



ヤマハギ？
マルバハギ？



マルバハギ

萩の小径だけでなく、園内のあちこちに様々な種類の萩を見ることができました。

マルバハギは、花序が葉軸より外に出ない(短い)。

ミヤギノハギは、花序が葉軸よりハギの中でも一番長く伸びる。

シロハギは、ミヤギノハギの白花変種。

ヤマハギは、花の時期になっても枝は殆ど枝垂れない。

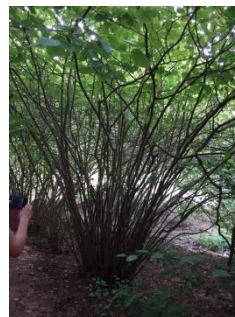


ナラ枯れ対策中 切り株面にカシナガの痕跡が。

宮崎には自生していないのに何故ヒュウガと言う？福知山市に自生。明智日向守光秀から来たのか？
トサミズキは、四国に自生している。



ヒュウガミズキ



トサミズキ



コガクウツギの実



ガンクビソウ 下向きにつく花がキセルの雁首に本当に似ていました。



ニガクリタケ
有毒。かわいい形でなめこの様。毒があるように思えない。



ツリガネニンジン
めしべの先が花弁より長く垂れ下がって見える。



アリマウマノスズクサ
矛型の葉。ミッキーマウスの形。



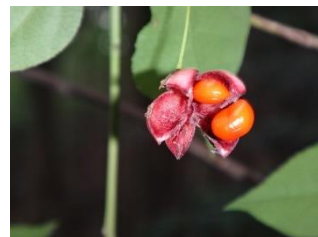
シロヨメナ
シラヤマギクとシロヨメナの違いは、葉の形、茎の色、花の大きさなど。



シラヤマギク



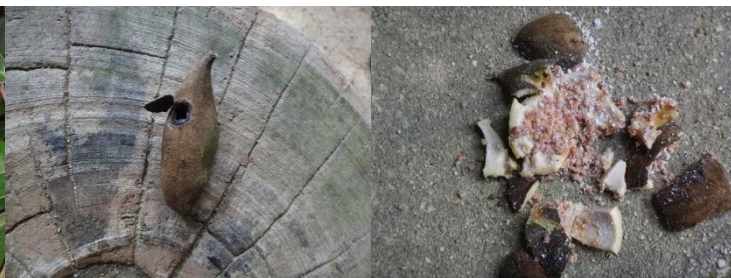
ウスタケ 有毒。
文字通り臼の形のキノコでした。



ツリバナの実
とても美しい



イスノキと虫こぶ



蓋付きの虫こぶを発見！虫こぶの中も調べてみました。相当気持ち悪い状態で、うようよと沢山のアブラムシが動いています。



シイモチ
モチノキ科で、葉がシイに似ている。



ヒマラヤマボウシの実
キノコみたい！



シナアブラギリ
種子から塗料などに利用される桐油が採れる。
有毒。



サンザシ
種子は健胃剤や咳止め薬になる。熟すと紅色に。この植物園では、サンザシの実が豊作でした！



コウヨウザン



ミツバウツギの実



チドリノキ
沢山の実をつけていました！



秋分草
茎が四方八方に伸びるのが特徴。あちこちに伸ばしていました。



ナナカマド
色づくのが楽しみです。



ヤノネグサ
タデの仲間。
葉柄が長い。

滋賀県からは遠い植物園に行った甲斐がありました。様々な種類の萩を観察し、多くの樹木・野草の実を見ることができ、とても充実した研修会でした。